

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

|    |                        |
|----|------------------------|
| 所在 | 東京都台東区浅草橋3-19-2 富士ビル2階 |
| 園名 | アスクバイリンガル保育園 浅草橋       |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

えいご

<テーマの設定理由>

バイリンガル園として、日本以外の身近なものの違いを気付く事の出来る時間としたい。

## 2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、ネイティブの講師と一緒に他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月①：動物のフラッシュカードを見て、日本語の鳴き声と英語の鳴き声の違いを知る。

11月②：その動物たちがどこで暮らしているのか考える。クイズ形式で行う。

12月①：old macdobald had a farm の歌をうたう。好きな動物の絵を描いて発表する。

12月②：old macdobald had a farm の歌をうたう。鳴き声を聞いてどの動物の声かを考え意見交換をする

1月①：好きな動物と鳴き声を発表する。

1月②：アメリカと日本に分けてみて、実際に日本にある物事は何か考える。

2月①：アメリカと日本以外にどんな国があるのか考える。

2月②：オリジナルの国旗を作る。

3月①：友だちにインタビューして、国旗を作る。

3月②：作った国旗を発表する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・スピーカー…全体に聞こえるように音量調節する。
- ・机、色鉛筆…各々集中の出来るように一人ずつ色鉛筆を用意し、机も余裕を持って用意した。
- ・フラッシュカード…日本語・英語の鳴き声を壁に掲示し、子どもたちが日頃から見られるようにする。
- ・使用している動物の塗り絵を用意し、その下に2択で英語の鳴き声を記載する。
- ・国旗や地図絵本／リングカード／ABC えほん／せかいちずパズル／地球儀…日頃から子ども達が自分で国旗を見たり、気になる国の国名を調べたりする。
- ・国旗一覧…国旗を見比べて違いに気付いたり感じたりする。

#### 4. 探究活動の実践

##### 【3 歳児実施分】

##### 問いを考える：

日本語と英語で動物の鳴き声は違うのかな？や動物たちはどこで生活しているのかな？と問いかけていき、国による違いを考えた。好きな動物を絵で描いた時には、どんな鳴き声をしているのだろうと疑問が出た。また日本とアメリカを題材にどんな食べ物があるかな？どんなスポーツがあるかな？と文化に関する問いかけていき、国による違いを考えた。オリジナルの国旗を作るうえで、アメリカと日本以外に、他にはどんな国旗があるのか疑問が出た。

##### 探究活動の様子：

日本語の動物の鳴き声を考えた後、英語で動物の鳴き声を教えてもらおうと、日本語と英語では鳴き声が全く違うことに驚いていた。「Cook-a-doodle-doo」の響きを気に入り、すぐに覚え、音の響きを楽しむ姿が見られた。繰り返すうちに「Oink.」「Quack.」など語彙数が増えていった。また鳴き声と動物をマッチングするワークシートでは、壁面の英語を読み取り、同じものを探していた。「old macdobald had a farm」を歌っているうちに、動物の鳴き声を自然と言えるようになる。

アメリカと日本どちらに関連するものか、絵カードを見て考えてみる。ハンバーガーのフラッシュカードを見えると「ハンバーガー食べたことあるよ。」と子どもたちになじみがあるため、「ハンバーガーは日本！」と日本の食文化であると考え子どもが多い。スポーツや象徴などまだ馴染みがなく、少し難しい様子であったが、興味を持ち探求していた。他国旗のフラッシュカードから世界にはたくさん国がある事を知る。アメリカの国旗の色塗りでは、アメリカの国旗に馴染みがないため、本物のカラーリングではなくオリジナルの色で塗ることを楽しんでいた。アメリカ以外の国旗の塗り絵でも好きな色で塗る様子がある。オリジナル国旗作りでは、「英語でなんて聞くんだった？」と「What food do you like?」と英語で友だちに質問しようとする姿があった。国旗を知ったことで、世界や国旗のパズルを積極的におこなう姿が見られるようになった。また英語講師の出身国についても、国旗パズルで「〇〇先生が生まれた国なんだった。」と指さしていた。

##### ふりかえり（保育士の気づき）：

3 歳児にとっては、動物は身近な物であり、知っている動物や触れ合ったことのある動物が多いため、覚える様子が早いと感じた。一方国旗はまだ難しいようであったが、すくわくプログラムを通して興味を持ち、自ら国旗パズルを行ったり、世界地図を見たりする機会が増え、良いきっかけとなった。

国についてはまだわからない子どもが多かったが、色や形に着目し、身近なことから探求心が育まれていく事を感じた。全体的に 3,4,5 歳児が合同で行っている為、年上児の模倣をして答えたり、ワークシートを行う姿が見られ、刺激をもらえる環境だった。



#### 【4 歳児実施分】

##### 問いを考える：

日本語と英語で動物の鳴き声は違うのかな？や動物たちはどこで生活しているのかな？と問いかけていき、国による違いを考えた。好きな動物を絵で描いた時には、どんな鳴き声をしているのだろうと疑問が出た。また日本とアメリカを題材にどんな食べ物があるかな？どんなスポーツがあるかな？と文化に関する問いかけていき、国による違いを考えた。オリジナルの国旗を作るうえで、アメリカと日本以外に、他にはどんな国旗があるのか疑問が出た。

##### 探究活動の様子：

日本語の動物の鳴き声を考えた後、英語で動物の鳴き声を教えてもらおうと、日本語と英語では鳴き声が全く違うことに驚いていた。「Cook-a-doodle-doo」の響きを気に入って、すぐに覚え、音の響きを楽しむ姿が見られた。動物の鳴き声、フラッシュカードが貼られている壁面を見て、友だち同士で「猫は？」「meow meow」とクイズを出し合っていた。また鳴き声と動物をマッチングするワークシートでは、壁面の英語を読み取り、同じものを探していた、次第に見なくても分かるようになった。「old macdobald had a farm」を一人で歌うほど、動物の鳴き声を自然と言えるようになる。動物バスケットのゲームでは、真ん中にいる子どもが「Baa,Baa.」という、羊のフラッシュカードを持っている子どもが移動するなど、動物と鳴き声がマッチしているからこそ出来るゲームも楽しむ。アメリカと日本どちらに関連するものか、絵カードを見て考えてみる。ハンバーガーのフラッシュカードを見えると「ハンバーガー食べたことあるよ。」と子どもたちになじみがあるため、「ハンバーガーは日本！」と日本の食文化であると考えた子どもが多く、講師がアメリカの食べ物と教えると、驚く姿があった。また富士山のフラッシュカードを見えると、「富士山は日本にあるよね！」や「アメリカには山はないの？」と山に着目して疑問を持つ姿が見られた。スポーツや象徴などまだ馴染みがなく、少し難しい様子であったが、興味を持ち探求していた。他国旗のフラッシュカードから世界にはたくさん国がある事を知る。数回繰り返すと、「Philipine.」「Switzerland.」など初めて知った国の名前も覚えてクイズで答えていた。アメリカの国旗の色塗りでは、本物のカラーリングを模倣して塗り絵を楽しみ、そこから星やストライプなどの形に注目して、世界の地図を見ながら似た国旗はないのか探していた。アメリカ以外の国旗の塗り絵（イタリア）では好きな色で塗った後、世界地図で本物の国旗を確かめ、国旗を縦に 3 等分した国旗を持つ国が他にもあることを知った。オリジナル国旗作りでは、「What food do you like?」と自然に英語を使い質問していた。

##### ふりかえり（保育士の気づき）：

動物は身近な物であり、日本語と英語の鳴き声が全く違うことに興味を引き、知っている動物や触れ合ったことのある動物が多いため、覚える様子が早いと感じた。フラッシュカードを壁面に飾っておくことで、日頃から子どもたち同士で遊ぶ姿が見られ、効果的だった。ゲームに取り入れることで、楽しんで学ぶことが出来ていた。

元々国旗に馴染みがある子どもたちが多く、名前を知っている国も多かったが、国旗までは知らない子が多い様子も見られた。国についてはまだわからない子も多かったが、色や形に着目し、身近なことから探求心が育まれていく事を感じた。また塗り絵コーナーに動物や国旗の塗り絵を置くことで、国旗一覧を見ながら色を塗ろうとしていて、子どもたちが自然と遊びに取り入れられると感じた。



## 【5歳児実施分】

### 問いを考える：

日本語と英語で動物の鳴き声は違うのかな？や動物たちはどこで生活しているのかな？と問いかけていき、国による違いを考えた。好きな動物を絵で描いた時には、どんな鳴き声をしているのだろうと疑問が出た。また日本とアメリカを題材にどんな食べ物があるかな？どんなスポーツがあるかな？と文化に関する問いかけていき、国による違いを考えた。オリジナルの国旗を作るうえで、アメリカと日本以外に、他にはどんな国旗があるのか疑問が出た。

### 探究活動の様子：

日本語の動物の鳴き声を考えた後、英語で動物の鳴き声を教えてもらおうと、日本語と英語では鳴き声が多く違うことに驚いていた。「Cook-a-doodle-doo」の響きを気に入って、すぐに覚え、音の響きを楽しむ姿が見られた。動物の鳴き声、フラッシュカードが貼られている壁面を見て、友だち同士で「猫は？」「meow meow」とクイズを出し合っていた。また鳴き声と動物をマッチングするワークシートでは、壁面の英語を読み取り、同じものを探していた、次第に見なくても分かるようになった。「old macdonald had a farm」を一人で歌うほど、動物の鳴き声を自然と言えるようになる。年下児に教えてあげる姿も見られた。動物バスケットのゲームでは、真ん中にいる子どもが「Baa,Baa.」という、羊のフラッシュカードを持っている子どもが移動するなど、動物と鳴き声がマッチしているからこそ出来るゲームも楽しむ。

アメリカと日本どちらに関連するものか、絵カードを見て考えてみる。ハンバーガーのフラッシュカードを見えると「ハンバーガー食べたことあるよ。」と子どもたちになじみがあるため、「ハンバーガーは日本！」と日本の食文化であると考え多くの子どもが多く、講師がアメリカの食べ物と教えると、驚く姿があった。また富士山のフラッシュカードが見えると、「富士山は日本にあるよね！」や「アメリカには山はないの？」と山に着目して疑問を持つ姿が見られた。スポーツや象徴などまだ馴染みがなく、少し難しい様子であったが、興味を持ち探求していた。他国旗のフラッシュカードから世界にはたくさん国がある事を知る。数回繰り返すと、「Philippine.」「Switzerland.」など初めて知った国の名前も覚えてクイズで答えていた。

アメリカの国旗の色塗りでは、本物のカラーリングを模倣して塗り絵を楽しみ、そこから星やストライプなどの形に注目して、世界の地図を見ながら似た国旗はないのか探していた。アメリカ以外の国旗の塗り絵（イタリア）では好きな色で塗った後、世界地図で本物の国旗を確かめ、国旗を縦に3等分した国旗を持つ国が他にもあることを知った。オリジナル国旗作りでは、「What food do you like?」と自然に英語を使い質問していた。

### ふりかえり（保育士の気づき）：

動物は身近な物であり、日本語と英語の鳴き声が多く違うことに興味を引き、知っている動物や触れ合ったことのある動物が多いため、覚える様子が早いと感じた。フラッシュカードを壁面に飾っておくことで、日頃から子どもたち同士で遊ぶ姿が見られ、効果的だった。

元々国旗に馴染みがある子どもたちが多く、名前を知っている国も多かったが、国旗までは知らない子どもが多い様子も見られた。国についてはまだわからない子どもも多かったが、色や形に着目し、身近なことから探求心が育まれていく事を感じた。また塗り絵コーナーに動物や国旗の塗り絵を置くことで、国旗一覧を見ながら色を塗ろうとしていて、子どもたちが自然と遊びに取り入れられると感じた。



# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

|    |                           |
|----|---------------------------|
| 所在 | 東京都台東区浅草橋 3-19-2 富士ビル 2 階 |
| 園名 | アスクバイリンガル保育園 浅草橋          |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽絵本、オノマトペ

<テーマの設定理由>

絵本の時間を大切にしている為、さらに大切にできる時間としたい。

## 2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月①：2つの音楽を聴き、想像したこと・連想したことを絵に描いて表現。

11月②：音楽を聴き、悲しい・怖い・寂しい曲なのか、楽しい・嬉しい・気持ちいい曲なのか、聴き比べた。その後「くれよんのくろくん」の読み聞かせを、音楽付きで見た。

12月①：BGMがついている絵本の読み聞かせを聞く。

12月②：様々な素材で音を鳴らしてみる。

1月①：絵本の場面に合わせて、音を作る。

1月②：自分たちで作ったBGMを絵本に合わせて、音を鳴らす。

1月③：「がちゃがちゃどんどん」の読み聞かせを見て、オノマトペを知る。

2月①：オノマトペカルタであそび、様々なオノマトペに触れる。

2月②：様々な素材を使って音を鳴らし、オノマトペを探す。

3月①：楽器に触れ、楽器のグループ分ける。

3月②：楽器を作ってみる。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・静かな環境…音楽を集中して聴けるようにした。
- ・机、色鉛筆…各々集中の出来るように一人ずつ色鉛筆を用意し、机も余裕を持てって用意した。
- ・3びきのこぶた…音楽絵本で使用
- ・ブレーメンの音楽隊／むかしばなし絵本…音楽絵本で使用
- ・シェイプドラム／木琴／ハンドベル／ミュージックポンプー…楽器を鳴らして使用

## 4. 探究活動の実践

### 【3 歳児実施分】

#### 問いを考える：

絵本の読み聞かせの見る中で、この場面にはどんな音が鳴っていそうか考えた。また身近なオノマトペにはどんなものがあるか？身近なもので音が鳴るものは？と音を探し見つけたものを使って実際に音を鳴らしてみる。実際に楽器に触れてどんな音がするか体験をしていった。

#### 探究活動の様子：

目をつぶって聞いた音がどんな感じか尋ねると、「雲の中にいるみたい。」や「夢を見ているかも。」と想像を膨らませていた。BGM づくりでは「3びきのこぶた」では藁の家や木の家、レンガの家と同じ家を建てる中にも、どんどん音を大きく表現し、素材の違いを表現していた。絵カードの教材を使って、その物がどんな音に聞こえたり感じたりするか探求する。オノマトペビンゴでは「信号機はどんな音になるかな？」の問いかけに、「チカチカだよ。」や信号機で流れる音を歌うなど、複数のオノマトペがあることを発見する。「かえるのうた」や「とけいのうた」など、歌をうたっているうちに歌の中にもオノマトペが出てくことに気が付く。ペットボトルや新聞紙、シリコン鍋敷き、たわしなどを使って、どんな音がするか探求する。音の鳴らし方によって鳴る音が違う事を知る。友だちの音の鳴らし方を見て、楽しそうと様々な鳴らし方をする姿が見られた。楽器はグループ分けの表を見ると、「これみたことある。」と実際に使ったことある楽器や見たことある楽器がたくさんあった。実際にシェイプドラムを使い鳴らしてみ、音が響いていることを教えてもらった。

#### ふりかえり（保育士の気づき）：

身近なものの音をオノマトペで表現することが得意なことに気が付いた。4・5歳児は信号機のオノマトペに悩んでいたが、3歳児はすんなりオノマトペで表現できていた。講師の真似をしながら音の出し方や音の鳴り方をそれぞれ楽しみ、積極的に活動に参加していた。



#### 【4歳児実施分】

##### 問いを考える：

絵本の読み聞かせの見る中で、この場面にはどんな音が鳴っていそうか考えた。また身近なオノマトペにはどんなものがあるか？身近なもので音が鳴るものは？と音を探し見つけたものを使って実際に音を鳴らしてみる。実際に楽器に触れてどんな音がするか体験をしていった。

##### 探究活動の様子：

目をつぶって自然の音を聞くと、想像を膨らませ「水の音が聞こえるから、川が流れているかも。」と絵を描いていた。またそこから想像を膨らませ、「家があるから大工さんも必要だね。」と絵を描いていた。「ブレーメンの音楽隊」では一定のリズムで音を鳴らすことで、動物たちの足音を表現していた。泥棒を引っ掻く場面では、固いものと柔らかいものを素早くこすり合わせることで、引っ掻く音を表現していた。お友だちの様子を見て、模倣してみても、音を探す姿も見られた。身近なオノマトペには、どんなものがあるか意識して考えてみようの問いに、絵カードの教材を使って、その物がどんな音に聞こえたり感じたりするか探求する。子どもたち同士でオノマトペクイズを出し合うと、「さくさく」と問題を出した子どもがいて、その答えに「クッキーだと思う。」「白菜じゃない？」と複数の答えが出たことで、オノマトペが同じものもあることに気が付いた。「かえるのうた」や「とけいのうた」をうたっているうちに、歌詞のなかにもオノマトペがあることに気が付く。保育室内にあるカプラ同士を鳴らし合わせて時計の音を表現していた。小さな積み木を使うことで秒針をも表現し、他の表現の仕方もあることに気が付いていた。楽器はグループ分けの表を見ると、「これみたことある。」と実際に使ったことある楽器や見たことある楽器がたくさんあった。輪ゴムと紙コップで出来たギターを鳴らしてみると、輪ゴムが揺れることで音を鳴らせていることを知った。

##### ふりかえり（保育士の気づき）：

音楽を聞いて絵を描く際には、聞こえないところまで想像を膨らませていて驚いた。オノマトペを身近にあるもので表現するとき、子どもによってみる視点が変わり、選ぶものも変わっていた。子どもたちが自分で考え、探したからこそ、違いが見られる結果となった。



### 【5 歳児実施分】

#### 問いを考える：

絵本の読み聞かせの見る中で、この場面にはどんな音が鳴っていそうか考えた。また身近なオノマトペにはどんなものがあるか？身近なもので音が鳴るものは？と音を探し見つけたものを使って実際に音を鳴らしてみる。実際に楽器に触れてどんな音がするか体験をしていった。

#### 探究活動の様子：

「ブレーメンの音楽隊」では鳴らしたい音よりも、使いたい廃材を先に選び取り合う姿が見られたが、繰り返すうちに「どんな音を鳴らそうかな？」と考え表現する姿が見られた。身近なオノマトペには、どんなものがあるか意識して考えてみようの問いに、絵カードの教材を使って、その物がどんな音に聞こえたり感じたりするか探求する。子どもたち同士でオノマトペクイズを出し合うと、「さくさく」と問題を出した子どもがいて、その答えに「クッキーだと思う。」「白菜じゃない？」と複数の答えが出たことで、オノマトペが同じものもあることに気が付いた。「かえるのうた」や「とけいのうた」をうたっているうちに、歌詞のなかにもオノマトペがあること保育室内にあることを知り、カプラ同士を鳴らし合わせることで時計の音を表現していた。また小さな積み木を使うことで秒針をも表現し、他の表現の仕方もあることに気が付いていた。楽器はグループ分けの表を見ると、「これみたことある。」と実際に使ったことある楽器や見たことある楽器がたくさんあった。輪ゴムと紙コップで出来たギターを鳴らしてみると、輪ゴムが揺れることで音を鳴らせていることを知った。

#### ふりかえり（保育士の気づき）：

オノマトペを身近にあるもので表現するとき、子どもによってみる視点が変わり、選ぶものも変わっていた。子どもたちが自分で考え、探したからこそ、違いが見られる結果となった。



# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

|    |                       |
|----|-----------------------|
| 所在 | 東京都台東区浅草橋3-19-2富士ビル2階 |
| 園名 | アスクバイリンガル保育園 浅草橋      |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

ボール

<テーマの設定理由>

毎日体操活動を行っている中で、ボール遊びの動きは身体活動の中で大切な要素なため。

## 2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に2回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらったりした。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：投げるボールについて考える。

12月：投げるボールを作る。

1月：蹴るボールについて考える。

2月：蹴るボールを作る。

3月：ボールを比べてみる。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ゴムボール、サッカーボール、ピンポン玉、バランスボール...ボールの種類を比べるために使用。
- ・新聞紙、風船、ビニールテープ...自作のボールを作るために使用。
- ・サッカーゴール...ボールを蹴る時にゴールを使用。
- ・トンネル...トンネル内にボールを転がし、ボールの向きについて考えるために使用。
- ・輪／リトルコーン...ボールを転がし、中に入れられるように力加減を考えられるようにするために使用。
- ・平均台...ボールを転がし、ボールの向きや力加減について考えられるようにするために使用。

### 【3歳児実施分】

#### 問いを考える：

ボールってどんなものがある？と問いかけ、自分たちで新聞紙を用いて実際にボールを作りボールの形や大きさの違い、種類を知っていきボールの素質に触れ探究した。次にボールの転がり方に注目し、形によってボールはどんな変化をするのか探求していった。

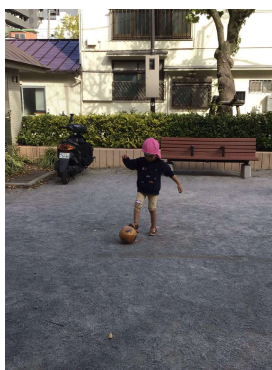
#### 探究活動の様子：

様々な形や大きさのボールについて問いかけられ、硬さや大きさの違うボールに触れながら「硬いボール」「柔らかいボール」「大きいボール」「小さいボール」とボールの素質の違いを認識していた。ボールを転がして遊んでいるうちに、「こんな形はどうかな？」と手作りのボールを押して形を変えてみていた。

星型やハート型、円柱型、三角の形の異なるボールを転がしてみると、形によって転がり方が異なることを発見した。「凸凹しているから曲がっちゃうんじゃない？」と考え、空気の入りの異なるボールを使い転がしドッチボールで遊んでみると、空気の入っていないボールは転がしても途中で止まったり、スピードが遅くなったりしていることに気が付いた。

#### ふりかえり(保育士の気づき)：

当初は「投げやすいボールはどんなだろう？」や「なんでこのボールの方がいいんだろう？」などの問いに対して、戸惑い保育士の声かけを待つ姿もあったが、すくわくプログラム活動がすすむと発見や経験した事を発表出来るようになってきた。3歳児は自分たちで考える問いかけは難しいと感じた。



#### 4. 探究活動の実践

##### 【4歳児実施分】

##### 問いを考える：

ボールってどんなものがある？と問いかけ、自分たちで新聞紙を用いて実際にボールを作りボールの形や大きさの違い、種類を知っていきボールの素質に触れ探究した。次にボールの重さに注目し、重さによってボールの動き方は変化していくのか探求していった。

##### 探究活動の様子：

蹴りやすいボールを作る時には、「サッカーボールと同じ方がいいかも。」と既存のボールの大きさを参考にしたり、「軽い方が蹴りやすいんじゃない？」と重さを調整したりしていた。自分の作ったボールで線の外に出ないようにボールを蹴ってみた時に、重いボールは線を超しにくい、軽いボールは軽いから線を超えやすいことに気が付いた。その後作ったボールや既存のボールの重さをはかりに乗せ、計ってみた。そして同じ位置から転がして進む距離を測ると、既存のボールと手作りボールとで進む距離が違うことを発見し、違いについて考えた。「(手作りボールは)凸凹してるから、引っかかりちゃうんじゃない？」とボールの表面の材質の違いやなめらかさの違いが関係しているのではないかと疑問が出た。保育園にある様々な既製品のボールを比べてみると、全部手作りのボールより進むことがわかった。その中で空気が少し抜けているボールを転がしていると、進みにくいことに気が付いた。そこから空気の入れ方の異なるボールを数種類比べてみると、はずみ方や転がり方が違うことを知った。

##### ふりかえり(保育士の気づき)：

習い事でサッカーのボールに触れている子が多く、投げるよりも蹴るボールに興味を持っていた。問いかけに対し、子ども達が自分の意見に自信を持って伝えていた。大人が当たり前と思っていることに対し、子ども達は疑問に思うことが多くあり、新しい発見を出来た。実際に計った重さや進んだ距離を表にして掲示していくことで、子どもの興味をさらに引き出せたと感じた。



### 【5歳児実証分】

#### 問いを考える：

ボールってどんなものがある？と問いかけ、自分たちで新聞紙や風船を用いて実際にボールを作りボールの形や大きさの違い、種類を知っていきボールの素質に触れ探究した。次にボールの重さに注目し、重さによってボールの動き方は変化していくのか探求していった。

#### 探究活動の様子：

蹴りやすいボールを作る時には、「サッカーボールと同じ方がいいかも。」と既存のボールの大きさを参考にしたり、「軽い方が蹴りやすいんじゃない？」と重さを調整したりしていた。自分の作ったボールで線の外に出ないようにボールを蹴ってみた時に、重いボールは線を越えにくい、軽いボールは軽いから線を飛び越えやすいことに気が付いた。その後作ったボールや既存のボールの重さをはかりで重さを計り、表に書き記した。そして同じ位置から転がしてみて進む距離を測ると、既存のボールと手作りボールとで進む距離が違うことを発見し、違いについて考えた。「(手づくりボールは)凸凹してるから、引っかけちゃうんじゃない？」とボールの表面の材質の違いやなめらかさの違いが関係しているのではないかと疑問が出た。保育園にある様々な既製品のボールを比べてみると、全部手作りのボールより進むことがわかった。その中で空気が少し抜けているボールがあり、それを転がしていると、進みにくいことに気が付いた。そこから空気の入れ方の異なるボールを数種類比べてみると、はずみ方や転がり方が違うことを知った。

#### ふりかえり(保育士の気づき)

友だちの意見を聞いてやってみるといことが出来た。また年下児に積極的にアドバイスする姿も見られた。子どもによって変わる値ではなく、だれがやっても同じような結果になる方法(計りで重さをはかることや、板道にボールを置きどこまで進むのかなど)を使うことで、子ども達が比べやすいようにしていった。

